

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 グレースシニア荏名	事業所名	看護小規模多機能ホーム荏名
所在地	(〒 506-0818) 岐阜県高山市江名子町 2980-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

住宅型有料老人ホーム・訪問介護事業所・訪問看護ステーション事業所併設の利点を活かし地域とのつながりを持ち、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して生活していただけるようサービスを一体的に提供していくことを心がけています。
地域に対し開かれた施設であることを目指しています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 12 月 1 日～	従業者等自己評価 実施人数	(27) 人 ※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 3 月 18 日	出席人数 (合計)	(9) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	☐ 自事業所職員 (3 人) ☐ 市町村職員 (1 人) ☐ 地域包括支援センター職員 (1 人) ☐ 地域住民の代表者 (1 人) ☐ 利用者 (1 人) ☐ 利用者の家族 (1 人) ☐ 知見を有する者 (1 人) ☐ その他 (____人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		組織体制の見直し、業務改善を行う。 スタッフ育成に対するマニュアルの整備	・組織図作成を行い業務の分担を確認 ・新入社員への育成マニュアルの作成	出来ている。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	医療依存度の高い方が多く介護、看護とも専門的なサービス提供への対応、チームとしての統一したケア、リスクマネジメントの対策を行う。	・介護職、看護職の専門性を活かし役割分担行い情報共有を行う。 ・報告書、情報提供書を作成し回覧する	出来ている。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	緊急時対策等家族、主治医と共有し地域の医療機関とも連携を行い急変時等への対応を行なう。	・主治医との連携を行い緊急時の対応が出来る様にスタッフ間での連携、情報共有を行う。 ・退院前カンファレンスへの参加等	出来ている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	感染症対策を行ないオレンジカフェの開催、地域の行事参加、まち協や民生委員さんの協力を得ながら情報の発信を続け住み慣れた地域での暮らしの提案を行う。	・オレンジカフェや夏祭りの開催、どなたでも参加出来るレクリエーションについての地域への声掛け、情報発信等 ・民生委員さん、まち協、地域包括支援センターとの情報共有	出来ている。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		専門職としての知識を持ち必要に応じての課題提起や改善策を提案し住み慣れた地域での生活を最期まで支援していく。	・ご家族、主治医、医療機関との連携を行い、必要に応じたサービスの調整を行うことが出来た。	出来ている。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		出来ている。	・組織体制の構築や、業務の見直し。 ・スタッフ育成に対するマニュアルの整備。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	出来ている。	・医療依存度の高い方が多く専門的なサービスが提供出来る様に業務を整理しチームとしての統一したプランの作成 ・リスクマネジメントへの対策を行う。 ・委員会、研修会を行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	出来ている。 項目 3 4・・・指定なし 項目 3 6・・・事例が発生した場合研修等行い受け入れを検討	・緊急時、災害時等の家族、主治医との連携体制の整備 ・退院前後後のカンファレンスの参加や関係者との情報共有。 ・インフォーマルサービスやサポートとの情報共有
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	出来ている。	・オレンジカフェの継続や夏祭り開催、地域行事への参加 ・まち協や民生委員さんとの情報共有 ・住み慣れた地域での暮らしの提案を行う。
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)		出来ている。	・目標達成に向けて専門職として課題提起や改善策を提案し住み慣れた地域での生活を最後まで支援していく

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表〔事業所自己評価・運営推進会議における評価〕

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○			✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・業務が多義に渡りスタッフ間でのコミュニケーションが不十分になる事がある。 ・教育体制は概ね出来ている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・スタッフ全員に対し「ジョブメドレーアカデミー」を使用した動画研修 ・外部研修、オンライン研修への参加奨励 ・研修参加のためのシフト調整 ・自己研鑽の研修への補助					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている		○				✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で 迅速に共有するための工夫」の2つ の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・朝礼連絡ノート、申し送り綴りの活用					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者 等および職員の安全確保の ため、事業所においてその 具体的な対策が講じられて いる		○				✓ 「各種の事故に対する予防・対策」 の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例 えば「医療・ケア事故の予防・対 策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防 犯対策」、「個人情報保護」などが考 えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・情報の更新、共有を行っている。 ・ケア事故等の予防、対策の研修を行って いる。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時において も、サービス提供が継続で きるよう、職員、利用者、関 係機関の間で、具体的な対 応方針が共有されている		○				✓ 「緊急時におけるサービス提供の ための備え」について、充足度を評 価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、 「連絡先リストの作成」、「医療材料 などの確保」、「災害時ケアのマニユ アル化」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・避難訓練の実施（3回） ・一斉ラインの活用					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		[具体的な状況・取組内容] ・連絡ノートの活用 ・担当者会議の開催 ・送迎時家族からの聞き取り					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		[具体的な状況・取組内容] ・全体会議・申し送りノート等の活用 ・ミニカンファレンスを行い両職種間での情報共有、担当者間での話し合いやアセスメント評価を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・担当者会議を行い、病状や状況の変化によるご利用者様の思いやご家族の思いの再確認を行っている ・自宅での生活環境設定等ご家族との話し合いのもと適切なアセスメント、計画の作成を行っている。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・心身の機能に合わせた生活支援を行い生活機能の維持、向上に繋げている ・有する能力に応じ住み慣れた地域での生活支援をご家族とともに行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 事前情報等の回覧 ・ ケア手順書作成し情報共有を行っている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 状況に合わせて行っている					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 状況に合わせて行っている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医、ご家族との連携により情報共有を行っている					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・入所相談 ・訪問サービス追加相談への対応					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医が本人家族に話される場に同席 ・変化する状況に合わせてご家族を含め担当者会議を行っている。 ・					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、 利用者のために必要と考え られる包括的なサポートに ついて、民生委員・地域包括 支援センター・市区町村職 員等への情報提供や提案が 行われている		○	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・民生委員、まち協との連携			✓ 「利用者のために必要となる、介護 保険外のサービスやインフォーマ ルサポート等を含めたケアの提供 について、多職種とともに検討・支 援を行っていくなどの取組」の充足 度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがな い場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会町会長 などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録につい て、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている		○	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・職員に対して会議録の回覧を行ってい る。 ・市へは会議後会議録の提出			✓ 「誰でも見ることができる方法で の情報発信」と「迅速な情報発信」 の2つの視点から、充足度を評価し ます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○				✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			○			✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整ってお り、積極的に受け入れてい る		○				✓ 「積極的な受け入れ」について、充 足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が 整っていない場合は、「全くできて いない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくで きている」は、その「積極性」の視 点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とす る要介護者を受け入れるこ とができる体制が整ってお り、積極的に受け入れてい る						✓ 「積極的な受け入れ」について、充 足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が 整っていない場合は、「全くできて いない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくで きている」は、その「積極性」の視 点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアにつ いて、特定の集合住宅等に 限定せず、地域に対して積 極的にサービスを提供して いる		○				✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、 地域への積極的な展開」について、 充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特 定の集合住宅等に限定することな く、地域全体の在宅療養を支える核 として機能していくことが期待さ れます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象とし ている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地 域の関係者に対し、必要に 応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている			○			✓ 「課題提起や改善策の提案等の取 組」について、その充足度を評価し ます ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて 得た情報や知見、多様な関係者との ネットワーク等を活用し、必要とな る保険外サービスやインフォーマ ルサービスの開発・活用等、利用者 等のみでなく地域における課題や 改善策を関係者に対して提案して いくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○			✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ・モニタリングを行い目標達成への評価を行っている。					✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている。	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ・主治医、医療機関、家族との密な連携。					✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・急変時の対応等を主治医、家族と共有し 必要時カンファレンスを行っている。					✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」